

平成30年度 資格スクール大栄
第150回日商簿記検定試験 模範解答

1 級 ①

商 業 簿 記

決算整理後残高試算表

平成×6年3月31日

(単位：千円)

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
現 金 預 金	7,643	支 払 手 形	48,680
受 取 手 形	51,320	買 掛 金	○ 68,276
売 掛 金	62,680	短 期 借 入 金	190,000
売 買 目 的 有 価 証 券	○ 12,320	貸 倒 引 当 金	2,480
繰 越 商 品	○ 403,480	未 払 費 用	3,623
未 着 品	○ 24,120	建物減価償却累計額	○ 500,000
未 収 入 金	○ 20,896	構築物減価償却累計額	○ 16,770
前 払 費 用	○ 2,868	資 産 除 去 債 務	○ 4,210
建 物	2,500,000	資 本 金	1,896,000
構 築 物	○ 83,852	資 本 準 備 金	○ 416,000
土 地	1,150,000	利 益 準 備 金	○ 71,800
(の れ ん)	○ 52,000	任 意 積 立 金	45,000
そ の 他 有 価 証 券	29,866	圧 縮 積 立 金	○ 400,000
貸 倒 懸 念 債 権	○ 1,200	繰 越 利 益 剰 余 金	○ 46,330
仕 入	○ 3,168,000	(その他有価証券評価差額金)	○ 709
棚 卸 減 耗 損	1,920	一 般 売 上	3,800,000
販 売 費	328,646	未 着 品 売 上	720,000
一 般 管 理 費	220,883	受 取 利 息	226
減 価 償 却 費	105,590	有 価 証 券 運 用 益	○ 2,780
利 息 費 用	○ 123	有 価 証 券 利 息	○ 1,723
貸 倒 引 当 金 繰 入	○ 2,210	受 取 配 当 金	420
為 替 差 損 益	○ 1,022	投 資 有 価 証 券 売 却 益	○ 432
売 上 割 引	3,920		
貸 倒 損 失	○ 900		
	8,235,459		8,235,459

○1つにつき1点 合計 25点
(配点は、当学院の予想です)

平成30年度 資格スクール大栄
第150回日商簿記検定試験 模範解答

1 級 ②

会 計 学

問題 1

語群 A	1	2	3	4	5
語群 B	カ	イ	ア	キ	ク

各 1 点 合計 5 点
(配点は、当学院の予想です)

問題 2

状況 1	記号	空欄の金額
	エ	6,000

状況 2	記号	空欄の金額
	イ	1,923

状況 3	記号	空欄の金額
	ウ	500

状況 4	記号	空欄の金額
	ア	4,000

状況 5	記号	空欄の金額
	ウ	3,000

記号と金額が正解で各 3 点 15 点
(配点は、当学院の予想です)

問題 3

投	資	の	ポ	ジ	シ	ヨ	ン	と	そ
の	成	果	を	測	定	し	て	開	示
す	る	こ	と	。					

5 点
(配点は、当学院の予想です)

平成30年度 資格スクール大栄
第150回日商簿記検定試験 模範解答

1 級 ③

工業簿記

問1

材料仕入高 (☆ 20,898,000) 円

材料消費高 (☆ 20,898,200) 円

問2

正常仕損費 (☆ 940,399) 円

問3

- ① (活動基準原価計算 直接原価計算 標準原価計算)
- ② (資源ドライバー 活動ドライバー 資源の流れ 活動の流れ)
- ③ (資源ドライバー 活動ドライバー 資源の流れ 活動の流れ)
- ④ (原価要素 原価部門 原価計算対象 活動)
- ⑤ (コスト・センター コスト・ビヘイビア コスト・ドライバー コストの流れ)

各1点

問4

- ① ★ 2,500 個
- ② ★ 2,000 個
- ③ ☆ 1,900 個
- ④ ☆ 2,000 個
- ⑤ ☆ 9,471,000 円
- ⑥ ☆ 6,818,600 円
- ⑦ ☆ 9,909,000 円
- ⑧ ☆ 11,300,000 円

予想配点 ☆ 各2点
★ 各1点

平成30年度 資格スクール大栄
第150回日商簿記検定試験 模範解答

1 級 ④

原 価 計 算

第1問

問1

☆ 544 円/個

問2

☆ 2,400,000 円

問3

直接材料費	(2,448,000)	円
変動加工費配賦額	(812,000)	
固定加工費配賦額	(2,273,600)	
当期総製造費用	(☆ 5,533,600)	円
期首製品・仕掛品有高	(132,800)	
合計	(5,666,400)	円
期末製品・仕掛品有高	(226,400)	
差引	(☆ 5,440,000)	円
予定操業度差異	(78,400)	
売上原価予算	(☆ 5,518,400)	円

問4

☆ 2,153,600 円

問5

☆ 4.1 %

問6

☆ 33,600 円

予想配点 ☆ 各2点

第2問

①	650	円
②	7,642	千円
③	400	円
④	貢献利益 差額利益 変動製造差益 営業利益	
⑤	18	%

予想配点 ①、②、③、⑤ 各2点
④ 1点

商業簿記 解説

決算整理仕訳

1. 仮払金

(借方) 繰越利益剰余金	19,800	(貸方) 仮払金	18,000
		(貸方) 利益準備金*	1,800

* ① $18,000 \text{千円} \div 10 = 1,800 \text{千円}$

② $1,800,000 \text{千円} \div 4 - (320,000 \text{千円} + 70,000 \text{千円}) = 60,000 \text{千円}$

③ ① < ② $\therefore 1,800 \text{千円}$

2. 商品売買

(1) 未処理事項(未着品)

(借方) 未着品*	5,720	(貸方) 買掛金	5,720
* @110円×52,000ドル=5,720千円			

(2) 未処理事項(為替予約)

① X6年2月20日取引分

(借方) 為替差損益	600	(貸方) 買掛金*	1,000
(借方) 前払費用*	400		

*1 直直差額: $(@110 \text{円} - @108 \text{円}) \times 200,000 \text{ドル} = 400 \text{千円}$

直先差額: $(@113 \text{円} - @110 \text{円}) \times 200,000 \text{ドル} = 600 \text{千円}$ 計1,000千円

*2 直先差額の次期配分額: $600 \text{千円} \times \frac{2 \text{カ月}}{3 \text{カ月}} = 400 \text{千円}$

※ $21,600 \text{千円} \div @108 \text{円} = 200,000 \text{ドル}$

② X6年3月5日取引分

(借方) 為替差損益	52	(貸方) 買掛金*	156
(借方) 前払費用*	104		

*1 直先差額: $(@113 \text{円} - @110 \text{円}) \times 52,000 \text{ドル} = 156 \text{千円}$

*2 直先差額の次期配分額: $156 \text{千円} \times \frac{2 \text{カ月}}{3 \text{カ月}} = 104 \text{千円}$

③ 売上原価の算定(一般販売)

(借方) 仕入	313,400	(貸方) 繰越商品	313,400
(借方) 繰越商品*	305,400	(貸方) 仕入	305,400
(借方) 棚卸減耗損*	1,920	(貸方) 繰越商品	1,920

*1 期末商品帳簿棚卸高: $303,480 \text{千円} + 1,920 \text{千円} = 305,400 \text{千円}$

*2 答案用紙の指定により販売費として処理

④ 売上原価の算定(未着品販売)

(借方) 仕入*	432,000	(貸方) 未着品	432,000
----------	---------	----------	---------

* 一般販売の原価率: $\frac{313,400 \text{千円} + 2,728,000 \text{千円} - 305,400 \text{千円}}{3,800,000 \text{千円}} = 0.72$

未着品販売の売上原価: $720,000 \text{千円} \times \frac{0.72}{1+0.2} = 432,000 \text{千円}$

3. 貸倒引当金

(1) 未処理事項

(借方) 貸倒引当金	600	(貸方) 貸倒損失	600
------------	-----	-----------	-----

(2) 貸倒引当金の設定(売上債権)

(借方) 貸倒引当金繰入*	2,010	(貸方) 貸倒引当金	2,010
---------------	-------	------------	-------

* $(51,320 \text{千円} + 62,680 \text{千円}) \times 2\% - (870 \text{千円} - 600 \text{千円}) = 2,010 \text{千円}$

(3) 貸倒引当金の設定(貸倒懸念債権)

(借方) 貸倒懸念債権	1,200	(貸方) 短期貸付金	1,200
(借方) 貸倒引当金繰入*	200	(貸方) 貸倒引当金	200

* $(1,200 \text{千円} - 800 \text{千円}) \times 50\% = 200 \text{千円}$

4. 事業承継

(借方) 繰越商品	100,000	(貸方) 短期借入金	190,000
(借方) 土地	350,000	(貸方) 資本金 ^{*1}	96,000
(借方) のれん ^{*3}	52,000	(貸方) 資本準備金 ^{*2}	96,000
		(貸方) 自己株式	120,000

*1 資本金： $(@39,000円 \times 8,000株 - 120,000千円) \times 50\% = 96,000千円$

*2 資本準備金： $@39,000円 \times 8,000株 - (96,000千円 + 120,000千円) = 96,000千円$

*3 のれん： $@39,000円 \times 8,000株 - (100,000千円 + 350,000千円 - 190,000千円) = 52,000千円$

5. 減価償却

(1) 建物

(借方) 減価償却費 ^{*1}	100,000	(貸方) 建物減価償却累計額	100,000
(借方) 圧縮積立金 ^{*2}	20,000	(貸方) 繰越利益剰余金	20,000

*1 減価償却費： $2,500,000千円 \div 25年 = 100,000千円$

*2 圧縮積立金の取崩： $500,000千円 \div 25年 = 20,000千円$

※ T/B圧縮積立金： $500,000千円 \times \frac{25年 - 4年}{25年} = 420,000千円$

(2) 構築物

(借方) 減価償却費 ^{*1}	5,590	(貸方) 構築物減価償却累計額	5,590
(借方) 利息費用 ^{*2}	123	(貸方) 資産除去債務	123

*1 減価償却費： $83,852千円 \div 15年 \div 2 = 5,590千円$

※ T/B構築物： $80,000千円 + 6,000千円 \times 0.642 = 83,852千円$

T/B構築物減価償却累計額： $= 83,852千円 \times \frac{2年}{15年} \div 2 = 11,180千円$

*2 利息費用： $4,087千円 \times 0.03 \div 2 = 123千円$

※ T/B資産除去債務：X3年4月 $6,000千円 \times 0.642 = 3,852千円$

X4年3月 $3,852千円 \times 0.03 \div 2 = 116千円$

X5年3月 $(3,852千円 + 116千円) \times 0.03 \div 2 = 119千円$ 計 4,087千円

6. 有価証券

(1) A社株式

(借方) 売買目的有価証券 [*]	2,780	(貸方) 有価証券運用益	2,780
----------------------------	-------	--------------	-------

* 評価差額： $@112円 \times (@22ドル \times 5,000株) - 9,540千円 = 2,780千円$

※ T/B売買目的有価証券： $@106円 \times (@18ドル \times 5,000株) = 9,540千円$

(2) B社社債

(借方) 満期保有目的債券 ^{*1}	723	(貸方) 有価証券利息	723
(借方) 未収入金 ^{*3}	19,500	(貸方) 満期保有目的債券 ^{*2}	19,068
		(貸方) 投資有価証券売却益	432
(借方) その他有価証券	28,602	(貸方) 満期保有目的債券 ^{*4}	28,602
(借方) その他有価証券 ^{*5}	648	(貸方) その他有価証券評価差額金	648

*1 当期償却額： $46,947千円 \times 0.0367 - 50,000千円 \times 0.02 \div 2 = 723千円$

※ 前期末償却額： $46,250千円 \times 0.0367 - 50,000千円 \times 0.02 \div 2 = 697千円$

T/B満期保有目的債券： $46,250千円 + 697千円 = 46,947千円$

*2 帳簿価額： $(46,947千円 + 723千円) \times 40\% = 19,068千円$

*3 売却価額： $50,000千円 \times 40\% \times \frac{97.5円}{100円} = 19,500千円$

*4 帳簿価額： $(46,947千円 + 723千円) - 19,068 = 28,602千円$

*5 その他有価証券の時価評価差額： $50,000千円 \times 60\% \times \frac{97.5円}{100円} - 28,602千円 = 648千円$

(3) C社株式

(借方)	そ の 他 有 価 証 券 *	61	(貸方)	有 価 証 券 利 息	61
------	-----------------	----	------	-------------	----

* 評価差額：@112円×55ドル× $\frac{5,000\text{ドル}}{50\text{ドル}}$ 株－555千円＝61円

T/Bその他有価証券：@111円×5,000ドル＝555千円

7. 経過勘定

(借方)	前 払 費 用	2,364	(貸方)	販 売 費	2,364
(借方)	一 般 管 理 費	3,623	(貸方)	未 払 費 用	3,623

模範解答参照

1. 取得原価：@200千円×300個＝60,000千円
2. 正味売却価額：@220千円－@40千円＝@180千円
@180千円×300個＝54,000千円
3. 評価損：60,000千円－54,000千円＝6,000千円

- (1) 割引現在価値：7,000千円＋(7,000千円÷1.075)＋(7,000千円÷1.075)²＋(7,000千円÷1.075)³
＋(7,000千円÷1.075)⁴＝30,445千円
- (2) 見積現金購入価額：30,000千円
- (3) (1)＞(2) ∴ 30,000千円

解約不能条項があり、所有権移転条項が無い場合、所有権移転外ファイナンスリースとなる。

経過利息の計算は、見積現金購入価額が取得原価となるため、見積現金購入価額とリース料の現在価値が等しくなる割引を用いる。

(借方)	リース資産	30,000	(貸方)	リース債務	30,000
------	-------	--------	------	-------	--------

(借方)	リース債務	7,000	(貸方)	現金預金	7,000
------	-------	-------	------	------	-------

(借方)	支払利息*	1,923	(貸方)	未払費用	1,923
------	-------	-------	------	------	-------

* (30,000千円－7,000千円)×8.36%≒1,923千円

(借方)	自己株式*	5,000	(貸方)	現金預金	5,025
------	-------	-------	------	------	-------

(借方)	支払手数料	25			
------	-------	----	--	--	--

* @50千円×100株＝5,000千円

(借方)	現金預金*2	3,000	(貸方)	自己株式*1	2,500
------	--------	-------	------	--------	-------

(貸方)	その他資本剰余金	500
------	----------	-----

(借方)	株式交付費	30	(貸方)	現金預金	30
------	-------	----	------	------	----

*1 @50千円×50株＝2,500千円

*2 @60千円×50株＝3,000千円

(借方)	法人税等調整額	4,000	(貸方)	繰延税金資産	4,000
------	---------	-------	------	--------	-------

一時差異等に係る税金の金額は、将来の会計期間において回収又は支払いが見込まれない税金の額を除き、繰延税金資産または繰延税金負債として計上しなければならない。

(1) 将来減算一時差異等：33,000千円＋20,000千円＝53,000千円

(2) 回収可能見込額(将来の見積課税所得)：45,000千円

(3) (1)＞(2) ∴ 45,000千円

繰延税金資産の増減額：45,000千円×30%－17,500千円＝△4,000

状況 5

(借方) 子 会 社 株 式 3,000 (貸方) 段階取得に係る差損益 3,000

連結財務諸表の作成にあたっては、親会社の投資勘定は、支配するに至った個々の取引すべての支配獲得部日における時価をもって、子会社株式の取得原価を計算する。なお、子会社株式の取得原価と支配を獲得するに至った個々の取引ごとの原価の合計額との差額は、当期の段階取得に係る損益として処理する。

子会社株式の時価評価にともなう差益： $60,000 \text{ 千円} \times \frac{70\%}{60\%} - (60,000 \text{ 千円} + 7,000 \text{ 千円}) = 3,000 \text{ 千円}$

第 3 問

模範解答参照

工業簿記 解説

<工業簿記> (単位：円)

問1

材料仕入高

3日 @480円×15,000kg+120,000円=7,320,000円
7日 @500円×6,000kg+54,000円=3,054,000円
13日 @500円×6,000kg+54,000円=3,054,000円
18日 @490円×15,000kg+120,000円=7,470,000円
合計：7,320,000円+3,054,000円+3,054,000円+7,470,000円=20,898,000円

材料消費高

前月繰越50,000円 (@500×100kg) + 当月仕入高20,898,000円 - 次月繰越49,800円 (@498×100kg)
=20,898,200円

原料X

前月繰越	100kg (@500)	100kg @500	製品A	
		4,900kg @488	製品A	製品A 2,441,200円
3日	15,000kg (@488)	10,000kg @488	製品B	製品B 4,880,000円
		100kg @488	製品A	
		4,900kg @509	製品A	製品A 2,542,900円
7・13日	12,000kg (@509)	5,000kg @509	製品A	製品A 2,545,000円
		2,100kg @509	製品B	
		7,900kg @498	製品B	製品B 5,003,100円
18日	15,000kg (@498)	7,000kg @498	製品A	製品A 3,486,000円
		次月繰越	100kg (@498)	

問2

正常減損費

生産データ

<製品A>

仕掛品	
月初 0個	完了品 2,000個 (うち100個仕損)
投入 2,500個 (2,400個)	月末 500個 (400個)

() 内は完成品換算量

製品	
月初 0個	販売 1,900個
完成 1,900個	月末 0個

<製品B>

仕掛品	
月初 100個 (80個)	完了品 2,000個
投入 2,000個 (1,960個)	月末 100個 (40個)

() 内は完成品換算量

製品	
月初 0個	販売 2,000個
完成 2,000個	月末 0個

直接材料費

製品A：2,441,200円+2,542,900円+2,545,000円+3,486,000円=11,015,100円
製品B：4,880,000円+5,003,100円=9,883,100円

直接労務費

製品A：@1,500円×1,500時間＝2,250,000円

製品B：@1,500円×1,200時間＝1,800,000円

マテリアル・ハンドリング

製品A：32,260,000円÷500時間×40時間＝2,580,800円

製品B：32,260,000円÷500時間×20時間＝1,290,400円

機械作業

製品A：3,500,000円÷7,000時間×2,440時間＝1,220,000円

製品B：3,500,000円÷7,000時間×976時間＝488,000円

段取

製品A：1,000,000円÷500時間×125時間＝250,000円

製品B：1,000,000円÷500時間×50時間＝100,000円

中間品検査

製品A：10,000,000円÷12,500個×2,500個＝2,000,000円

製品B：10,000,000円÷12,500個×1,900個＝1,520,000円

完了品検査

製品A：12,000,000円÷12,500個×2,000個＝1,920,000円

製品B：12,000,000円÷12,500個×2,000個＝1,920,000円

設備関連

製品A：18,002,400円÷600時間×50時間＝1,500,200円

製品B：18,002,400円÷600時間×50時間＝1,500,200円

製品に対する配賦額

製品A：2,580,800円＋1,220,000円＋250,000円＋2,000,000円＋1,920,000円＋1,500,200円
＝9,471,000円製品B：1,290,400円＋488,000円＋100,000円＋1,520,000円＋1,920,000円＋1,500,200円
＝6,818,600円

<製品A>

月末仕掛品原価

直接材料費：11,015,100円÷2,500個×500個＝2,203,020円

加工費：(2,250,000円＋9,471,000円)÷2,400個×400個＝1,953,500円

合計：2,203,020円＋1,953,500円＝4,156,520円

正常仕損品原価

直接材料費：11,015,100円÷2,500個×100個＝440,604円

加工費：(2,250,000円＋9,471,000円)÷2,400個×100個＝488,375円

合計：440,604円＋488,375円＝928,979円

正常仕損費：928,979円＋廃棄費用11,420円＝940,399円

完成品原価：11,015,100円＋2,250,000円＋9,471,000円－4,156,520円＋11,420円＝18,591,000円

<製品B>

月末仕掛品原価

直接材料費：9,883,100円÷2,000個×100個＝494,155円

加工費：(1,800,000円＋6,818,600円)÷1,960個×40個＝175,890円（円未満四捨五入）

合計：494,155円＋175,890円＝670,045円

完成品原価：494,200円＋374,145円＋9,883,100円＋1,800,000円＋6,818,600円－670,045円
＝18,700,000円

問4 解答参照

< 50%通過 >

製 品 A	
当月通過 2,500 個	完了品 2,000 個
	月末 500 個

製 品 B	
月初 100 個	完了品 2,000 個
当月通過 1,900 個	

製品Aの売上総利益：@15,000円×1,900個－18,591,000円＝ 9,909,000円

製品Bの売上総利益：@15,000円×2,000個－18,700,000円＝11,300,000円

原価計算 解説

第1問

問1 原価標準

直接材料費：標準価格 48円/kg × 標準消費量 5 kg/個 = 240円/個
変動加工費：標準配賦率 40円/時間 × 標準加工時間 2時間/個 = 80円/個
固定加工費：標準配賦率 112円/時間 × 標準加工時間 2時間/個 = 224円/個
合 計 544円/個
変動加工費標準配賦率：840,000円÷21,000時間＝40円/時間
固定加工費標準配賦率：2,352,000円÷21,000時間＝112円/時間

問2 年間購買予算

年間計画販売量が10,000個で、製品の期首在庫量が100個で、製品の期末在庫量が200個であるから、年間計画生産量は10,100個となる。
また、年間計画生産量が10,100個で、仕掛品の期首在庫量が200個で、仕掛品の期末在庫量が300個であるから、年間計画投入量は10,200個となる。
材料の製品1個当たりの標準消費量は5 kgであるから年間の計画消費量は51,000kg（5 kg/個×10,200個）となる。材料の期首在庫量が2,000kgで、材料の期末在庫量が2,000kgであるから、必要な年間購買量は50,000kgとなる。
よって、年間購買予算は2,400,000円（48円/kg×50,000kg）となる。

仕 掛 品		製 品	
期首 200 個 (100 個)	計画生産量 10,100 個	期首 100 個	計画販売量 10,000 個
計画投入量 10,200 個 (10,150 個)	期末 300 個 (150 個)	計画生産量 10,100 個	期末 200 個

() 内は完成品換算量

問3 売上原価予算

直 接 材 料 費：240円/個×10,200個（計画投入量） = 2,448,000円
変動加工費配賦額：80円/個×10,150個（計画投入量） = 812,000円
固定加工費配賦額：224円/個×10,150個（計画投入量） = 2,273,600円
当期総製造費用 5,533,600円
期首製品有高：544円/個×100個 = 54,400円
期首仕掛品有高：240円/個×200個＋(80円/個＋224円/個)×100個 = 78,400円
合 計 5,666,400円
期末製品有高：544円/個×200個 = 108,800円
期末仕掛品有高：240円/個×300個＋(80円/個＋224円/個)×150個 = 117,600円
差 引 5,440,000円
予定操業度差異：224円/個×（10,150個－10,500個） = 78,400円
売上原価予算： 5,518,400円

問4 販売費及び一般管理費の年間予算

正常操業圏は正常生産量の85% (8,925個)～100% (10,500個)。よって、20X5年度が最小操業度、20X7年度が最大操業度となる。

変動費率：(20X7年度の販管費合計2,193,600円－20X5年度の販管費合計2,073,600円) ÷
(20X7年度の販売量10,500個－20X5年度の販売量9,000個) = 80円/個

固定費：2,193,600円－80円/個×10,500個＝1,353,600円

または、2,073,600円－80円/個×9,000個＝1,353,600円

販売費及び一般管理費の年間予算：80円/個×10,000個＋1,353,600円＝2,153,600円

問5 予定売上高営業利益率

予定売上高：800円/個×10,000個＝8,000,000円

予定営業利益：8,000,000円－5,518,400円－2,153,600円＝328,000円

予定売上高営業利益率：328,000円÷8,000,000円＝4.1%

問6 年間営業利益の差額

期首棚卸資産に含まれる固定費と期末棚卸資産に含まれる固定費の差額が全部標準原価計算の営業利益と直接標準原価計算の営業利益の差額になる。

期末棚卸資産に含まれる固定費：224円/個×(仕掛品150個＋製品200個)＝78,400円

期首棚卸資産に含まれる固定費：224円/個×(仕掛品100個＋製品100個)＝44,800円

年間営業利益の差額：78,400円－44,800円＝33,600円

第2問 解答参照

1個当たりの総製造原価：(変動製造原価16,000千円＋固定製造原価10,000千円) ÷ 40,000個
＝650円

注文を引き受けた場合の営業利益

現状の営業利益：40,000千円－16,000千円－10,000千円－4,000千円－2,758千円＝7,242千円

注文引きうけた場合の増分利益：(500円/個－400円/個) × 4,000個＝400千円

注文を引き受けた場合の営業利益：7,242千円＋400千円＝7,642千円

1個当たり475円の価格での特別注文を引き受けた場合の差額利益

差額利益：(475円/個－400円/個) × 4,000個＝300千円

売上高営業利益率

売上高営業利益率：(7,242千円＋300千円) ÷ (40,000千円＋475円/個×4,000個)＝18%